

『認知症の理解と支援』

医師 大塚 智 丈

わが国では、認知症の人の数は現在すでに200万人以上と推測されています。今後とも急増し20年後には現在のほぼ2倍に達すると考えられています。また、85歳以上の高齢者の4人に1人が認知症と言われており、将来自分または家族の誰かが認知症になる確率はかなり高いと言えます。他人事ではなく、まさしく明日はわが身です。しかし、認知症に対する偏見や誤解がまだまだみられているのが現状です。

その為、早期発見ができず対応が遅れ、適切な治療、介護指導、介護・医療サービスなど必要な支援を受けられないまま放置されることがしばしばあります。その結果、認知症が進んでしまうことや、本人と家族相互のストレスのぶつかり合いが増強し在宅介護の破綻に至ることが多くなります。

講演では、まず認知症を正しく理解していただき、早期発見・早期対応の必要性や対応・支援のポイントについてお話したいと思っています。

社会福祉士 野 島 正 光

多くの人は、いつまでも住み慣れた地域で自分らしく生活したいと思っています。それは認知症になっても同じだと思います。しかし、認知症になると記憶障害や認知障害から不安や混乱に陥りやすいため、周りの人もどのように関わればいいのか分からず、結果、本人が孤立したり、関係が希薄になることもあります。また、家族にとっては、「この状態がいつまで続くのだろうか」といった、不安感などに押し潰されそうになったりします。

今回の講演では、自分が、家族が認知症になっても、住み慣れた地域で過ごすために知っておいてほしい、デイサービスや訪問介護、家族を対象とした「認知症の人と家族の会」などの社会資源や、認知症を疑ったときに相談できる場所など、家族で抱え込まないための工夫の仕方などをお伝えします。そして、地域で認知症の方を支える取り組みも全国で始まっています。その活動の一部も合わせてご紹介したいと思います。

MEMO

すこやかに生きるために

— 認知症と介護 —

第I部 講演

『認知症の理解と支援』

講師 大塚 智 丈 医師

講師 野 島 正 光 社会福祉士

第II部 講演 写真・録画・録音等禁止

『脱！介護神話』

～認知症の父と過ごした日々。あなたと私の笑顔のために～

講師 タレント・作家 遙 洋 子

と き 平成23年7月2日(土)

開場 午後1時 開演 午後1時30分～4時

と ころ 観音寺市民会館大ホール
(入場無料)

主 催 / 社団法人 三豊・観音寺市医師会
特別後援 / NHK高松放送局・四国新聞社
後 援 / 香川県医師会・観音寺市・三豊市

ごあいさつ

健康教育講演会は、平成元年に始まり今年で23回目を迎えることが出来ました。毎回、多くの市民の皆様にご参加頂けたことと、観音寺市、三豊市、その他関係諸機関の御後援により、このように長期間続けることが出来たものと感謝しております。

今年の講演会は、「すこやかに生きるために」をメインテーマに、「認知症と介護」をサブテーマに開催したいと思います。

「認知症」は、高齢化社会において、医学的な大きな問題となっているだけでなく、「介護」を含めて、社会的にも、大きな問題となっています。

第Ⅰ部では、三豊市立西香川病院の副院長大塚智丈先生、社会福祉士野島正光先生に、医学的な講演をお願いしております。第Ⅱ部では、文化的な講演として、タレント・作家の遙洋子さんをお願いしております。

皆様お誘い合わせの上、ご来場頂けますよう、心よりお待ちしております。

社団法人 三豊・観音寺市医師会

プログラム

開会挨拶（午後1時30分） 池田博行（三豊・観音寺市医師会 会長）

来賓挨拶

第Ⅰ部 講演（午後1時40分～2時40分）

「認知症の理解と支援」

講師 大塚智丈先生（三豊市立西香川病院 副院長）

講師 野島正光先生（三豊市立西香川病院 社会福祉士）

司会 小野好彦（三豊・観音寺市医師会 副会長）

休憩（午後2時40分～3時）

※昨年のアンケートのまとめとお願い（約5分間）

第Ⅱ部 講演（午後3時～3時50分）

「脱!介護神話」～認知症の父と過ごした日々。あなたと私の笑顔のために～

講師 遙洋子氏（タレント・作家）

司会 池田博行（三豊・観音寺市医師会 会長）

閉会謝辞（午後3時50分） 富田章一郎（三豊・観音寺市医師会 副会長）

閉会（午後4時）

進行 新鞍誠（三豊・観音寺市医師会 理事）

要約筆記 NPO法人香川県要約筆記サークルゆうあい

講師 遙洋子 タレント・作家 紹介



1986年、読売テレビ「ときめきタイムリー」で上岡龍太郎氏と共に司会を務め、本格的なタレント活動を開始。その後、テレビ・ラジオ・執筆と活動の幅を広める。自分の生き方、あり方についての考えには、誰にも負けないパワーと説得力があり、持ち前の大阪弁を生かした喋りでおなじみのタレント、そして作家である。

■ 職歴・経歴

大阪府出身。武庫川女子大学短期大学部卒業。1986年 読売テレビ「ときめきタイムリー」で上岡龍太郎氏と共に司会を務める。1997年から3年間、タレント活動を続けるかたわら、東京大学・上野千鶴子教授のもとでフェミニズム社会学を師事。その集大成として著した『東大で上野千鶴子にケンカを学ぶ』

がベストセラーとなる。また自らの父親の介護に携わった経験から著した『介護と恋愛』では、キャリアウーマンが抱える現実を浮き彫りにし、高齢者介護への新たな視点も築く。その他、シングル女性の生き方を描いた『結婚しません。』は、日本図書館協会選定図書にも選ばれている。

『日経ビジネス』でコラム“働く女性の眼”を4年間連載後、現在、日経オンラインWEBサイトに“男の勘違い 女のすれ違い”を連載中。それら連載は、『働く女は腕次第』や『女の敵』として出版されている。2006年秋には、自作『介護と恋愛』の脚本を手がけ、NHKでドラマ化。文化庁の芸術祭参加ドラマに選ばれる。2008年には、『主婦たちのオーレ!』『女ともだち』等を出版。2010年には、『死にゆく者の礼儀』『気難しい女性との上手な接し方』などを出版。

講師 大塚智丈 医師 紹介

1988/05 徳島大学医学部附属病院 精神科神経科 研修

1989/07 清生園病院 勤務

1990/10 徳島市立園瀬病院 勤務

1992/04 国立療養所西香川病院 勤務

2000/02 高瀬町立西香川病院 精神科医長

2002/08 高瀬町立西香川病院 精神科診療部長

2005/04 高瀬町立西香川病院 副院長

講師 野島正光 社会福祉士 紹介

2004/03 四国学院大学 社会福祉学科 卒業

2004/04 高瀬町立西香川病院 社会福祉士として 勤務